

夏季の農作業中の死亡事故が急増しています！

- ☐ 近年、**農作業中の熱中症等**による死亡者が増加しています。
- ☐ また、**熱中症以外にも高所からの転落や草刈り中の事故が増加**しています。
- ☐ **夏季の高温などによる疲れなどが、事故の発生に影響**しています。
- ☐ **熱中症のリスクが高い日に発表される熱中症警戒アラートは近年増加**しており、これに伴い**農作業中の熱中症による救急搬送人員数も増加**しています。
- ☐ **我が国の気温は年々高くなっており、今後も熱中症等の発生リスクは高い状況が続く**ことが想定されます。



熱中症等の事故・ヒヤリハット事例

農業は1人作業が多く、熱中症になった際に自分では症状を自覚しにくいことから、熱中症が重篤化しやすい傾向にあります。また、高温の日は疲れ等により、高所から転落する等の事故が起きやすいので注意が必要です。

夏の農作業中の死亡事故事例

- 5月** ビニールハウス内で作業中、熱中症で死亡（60代男性）
ビニールハウス内でマルチはり中、心肺停止の状態で見えられ、病院に搬送後、死亡。
農業経験50年のベテランだった。
- 7月** 水田畦畔での草刈り作業中、熱中症で死亡（70代男性）
朝から水田畦畔の草刈り中、意識不明の状態で見えられ、病院に搬送後、死亡。刈払機は手元になく、具合が悪くなり意識を失ったものと推定。当日の気温は34.4度だった。
- 8月** 高所からの転落による死亡（70代男性）
畑で木の枝切り中に梯子から転落し地面へ落下。同僚が救急を呼び救命センターへ搬送。
心停止より一時的に心拍再開するも死亡。当日は当地域に熱中症警戒アラートが発表されていた。



改善策

気温が低くても、気流の少ないハウス内は、高温・高湿度となりやすい。暑さに慣れていない時期にハウス内での作業はリスクが高いため、しっかりと暑さ対策をしましょう。



夏季の草刈り作業は労働負荷が高く、事故も多発しています！
直射日光を避ける帽子等の熱中症対策アイテムを活用し、単独作業を避け、こまめに休憩を取りましょう。



夏季の高所作業也多発しています！
暑熱環境の作業をする際は、熱中症以外の農作業事故にも熱中症対策を行いつつ、作業に一層の注意を払いましょう。

夏の農作業中の体温の変化

もう少しと思い、急昇する体温（70代男性）
コンバインを使って稲刈り中、13時頃まで作業を続けた。体温が急激に増大し、危険な状態となったが、体温上昇を知らせる警報に気付かなかった。その結果、体温がさらに危険なレベルまで上昇し、夜まで下がらなかった。



熱を放散しにくい作業服で連続した長時間作業は熱中症のリスクを高める要因になります。こまめな休憩や水分・塩分補給を行いましょう

令和6年度農林水産省補助事業の熱中症対策モニター調査報告(カナリアによる深部体温計測)より引用

対策を徹底して熱中症による事故を防ぎましょう！

山梨県東部家畜保健衛生所

電話：055-262-3166 / FAX：055-262-3108

夜間の連絡先：090-5535-8005

土日・休日の連絡先：090-5535-8005 090-5544-7868